

シンボルタワー「布施の戦いの地跡」石碑建設による活性化起点の創生

取組に至る背景・事業の目的

長野市篠ノ井は交通の要衝であり、第一次川中島合戦「布施の戦い」（1553年）のあった歴史の町でもある。

「布施の戦いの地」は、現在の篠ノ井駅付近とされているにもかかわらず、限られた人にしか知られていない。この歴史的資源を生かすため、布施の戦いの地跡にシンボルタワーとして石碑を建設し、認知度を高めるとともに、篠ノ井一体化の気運醸成と地域の活性化の起爆剤とする。

事業内容

「布施の戦いの地跡」を明確に次世代に継承するため、篠ノ井駅西口ロータリーに、碑文を記載した石碑を住民からの寄附金により建立し、石碑碑文説明や篠ノ井の音楽、地元小学校の紹介の音声放送設備を併設した。また、石碑周辺の植栽等環境改善を行った。

さらに、石碑建設記念事業として篠ノ井駅西口合戦まつり、記念歴史講演会、記念誌の発行などを行った。

地域活性化のための古道めぐりは、春の「桃・桜の花見ウォーキング」と秋の「古道と文化財説明板めぐり」の2回実施した。

事業効果

全国紙、県内紙などのマスコミに多数取り上げられたことにより、「布施の戦いの地跡」について認知度を高めることができ、地域の歴史・文化・伝統を継承することができた。

また、篠ノ井駅西口合戦まつりに1,200人、記念歴史講演会に200人の参加者を集め、地域の宝を生かした特色ある観光地づくりに繋がった。

古道めぐりについては、2回で180人の参加があり、好評であったため、今後も継続して続けていきたい。

住民自らの手で「布施の戦いの記念事業」を手作りし、文化財めぐり等各種活動を行うことにより、篠ノ井を想う気持ちを培い、相互交流が進み地域の一体感が醸成されるとともに、元気なまちづくりの第一歩になった。



【石碑竣工式の様子】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後も地域活性化のため、シンボルタワー「布施の戦いの地跡」石碑を起点として、好評であった古道めぐりの開催、布施の戦いの記念事業の開催及び「布施の戦いの地」知名度向上事業など行い、活性化起点の創生の効果を継続していく。

【選定のポイント】

歴史ウォーキングイベント等を定着したイベントとして開催することや、住民からの募金による石碑の建立によって、地域一体となった盛り上がりが見られたほか、地域の歴史・文化・伝統の継承が図られ、地域の活性化につながっている。

| | | |
|-------------------------------|-------|----------|
| 団体名 篠ノ井史跡等ボランティアガイド会 (長野市) | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 026-292-2072 | 事業費 | 997,916円 |
| メールアドレス wtnd@avis.ne.jp | 支援金額 | 433,000円 |

